

くるめ支え合うプランの進捗状況について

1 久留米市社会福祉協議会の取組み

(1) 校区福祉活動計画づくりの支援

令和2年度に1校区完成、令和3年度中の完成予定は9校区。その他の校区については、令和4年度中の完成を目途に、策定に向けて働きかけを実施。

校区担当コーディネーターが、策定支援を行う中で、くるめ支え合うプランの説明をするとともに、校区福祉活動計画策定の手引きを活用しながら、必要に応じて説明会や学習会を開催。

策定に際しては、校区社会福祉協議会のみでの策定にとどまらず、支え合い推進会議に意見を求める校区や、計画策定委員会や計画検討会議を設置したり、支え合い推進会議で策定したりする校区もあります。

【策定状況】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
校区数	1校区	9校区（予定）	36校区（予定）

【策定参画団体（例）】

- ・校区コミュニティ組織 ・自治会 ・校区社会福祉協議会
- ・民生委員児童委員協議会 ・共同募金会 ・ふれあいの会
- ・老人クラブ ・女性の会 ・母子寡婦福祉会 ・子ども会
- ・青少年育成協議会 ・人権啓発推進協議会 ・環境衛生連合会
- ・小学校、中学校、PTA ・幼稚園、保育園 等

【具体的な動き】

- ・地域共生社会の実現に向けて、高齢者のみならず、子どもや子育て世代、障害者、外国人など世代や分野を超えて、それぞれの課題の把握や取組みの検討を行い、計画に反映している。
- ・ワークショップ形式も取り入れて策定している。
- ・支え合い推進会議で実施したアンケート調査も活用して、住民の意見や課題を把握している。
- ・計画策定の過程を通して、参画団体同士の「横のつながり」が強化され、「めざす姿」の共通認識が生まれてきている。
- ・計画策定に携わった自治会長（町内会長）から、「自信をもって住民へ周知できる」という声があった。
- ・校区福祉活動計画の概要版を全戸配布したところ、個別の相談につながったケースがある。

2 久留米市の取組み

(1) 市民への周知

- ①地域福祉マガジン「グッチョ」の配信（11回）
- ②広報久留米3月号に再犯防止推進を掲載
- ③ラジオや研修会を活用したPR

(2) 重層的支援体制整備事業の開始

令和3年度から、重層的支援体制整備事業（相談支援事業、参加支援事業、地域づくりに向けた支援事業等）を実施。

(3) くるめ支え合うプラン取組推進事業の実施

別紙参照

(参考) 成果指標の状況

<全体>

○地域での支え合いや助け合いが充実していると感じる市民の割合

H31・R1	R2	…	R7（目標）
64.1%	-	…	70.0%

<関係を豊かにする>

○地域での見守り訪問活動件数（ふれあいの会による訪問活動件数）

H30	H31・R1	R2	…	R7（目標）
226,650件	239,283件	235,042件	…	296,000件

<寄り添う体制を整える>

○生活自立支援センターの新規相談受付件数

H30	H31・R1	R2	…	R7（目標）
1,020件	1,131件	2,790件	…	1,020件

<地域をともに創る人を育む>

○助けを求めることができる人がいる市民の割合

H31・R1	R2	…	R7（目標）
81.3%	-	…	87.0%

○困っている人の相談にのることができる市民の割合

H31・R1	R2	…	R7（目標）
23.7%	-	…	29.0%